

花矢図書館だより 2022



大館市立花矢図書館
 【TEL・FAX】0186-46-1557
 【火～金】9:00～19:00
 【土・日】9:00～17:00

☆ 新着図書 ☆

<一般書>

- ・ときめく黒い服 (渡部 サト)
- ・暇な人、謎解きでもしませんか? (暇謎)
- ・シルバー川柳ベストセレクション
- ・マンモスの抜け殻 (相場 英雄)
- ・ミス・パーフェクトが行く! (横関大)
- ・人形姫 (山本 幸久)
- ・御坊日々 (富中 恵)
- ・真夜中のマリオネット (知念 実希人)
- ・おわかれはモーツァルト (中山 七里)
- ・ひとりでカラカサさしてゆく (江國 香織)
- ・饗宴 (赤松 利市)
- ・世界の美しさを思い知れ (額賀 濤)
- ・灰色の評決 (犬塚 理人)
- ・仁王の本願 (赤神 諒)
- ・高瀬庄左衛門御留書 (砂原 浩太郎)
- ・ミトンとふびん (吉本 ばなな) 他

<児童/中学生>

- ・世界一まぎらわしい動物図鑑 (今泉 忠明)
- ・マンガでおぼえる読解力があがる対義語・類義語 (齋藤 孝)
- ・アニメコミックもっと! まじめにふまじめ
 かいけつゾロリ スペシャル
- ・四つ子ぐらし<10> (ひの ひまり)
- ・ノラネコぐんだんラーメン屋さん (絵本)
- ・パンどろぼう (絵本)
- ・はじめての世界名作えほんシリーズ (絵本) 他

今月のおすすめ図書

『黄金旅程』 馳 星周

“人馬一体”で成り立つ、美しき競馬の世界——。

著者の故郷・浦河を舞台にした人と馬の物語。生産者、馬主、厩務員、調教師、装蹄師、そして騎手…。一頭の競走馬に未来を託した人々の生きざまを描く、競馬の光と闇の感動巨編。

(※「黄金旅程」…本作の主役であるエゴンウレアのモデルとなった実在の競走馬・ステイゴールドの中国名が由来。人間嫌いで気まぐれな性格だったとか……)



『子どもテツガク』 小川 仁志

大切なのは考える力。学校では教えてくれない86の「なぜ?」を考えて、子どもの生きる力を伸ばす!

大人だけでなく子どもも、環境が変化した時、悩みを抱えた時、人生の岐路で選択する時…「自分自身で深く考えて答えを出す」ということはとても大切。子どもがたくさん「なぜ?」や「ギモン」を持つ習慣を作るキッカケとしてオススメしたい一冊です。

<今月のテーマ>

大人向け 感謝をこめて
 児童向け ひなまつり



3月のあれこれ

< 3月18日は『彼岸の入り』 >

春のお彼岸・秋のお彼岸それぞれの初日を「彼岸の入り」、終日を「彼岸のあけ」といい、春分の日・秋分の日を「お中日」といいます。太陽が真東から上がって、真西に沈み昼と夜の長さが同じになる春分の日と秋分の日を挟んだ前後3日の計7日間を「彼岸」と呼び、この期間に仏様の供養をする事で極楽浄土へ行くことができると考えられていたそうですよ。

お彼岸に「おはぎ」をお供えする理由の一つとして「小豆」の赤色は邪気を払う効果があると言われています。さらに昔は貴重であった砂糖を使うおはぎをお供えすることで、ご先祖様に感謝の気持ちを伝えることに繋がるようです。また、おはぎは「ぼたもち」とも呼ばれますが、実は彼岸の季節によって呼び方に



違いがあるんです。春は春に咲く牡丹にちなんで「ぼたもち」。秋は秋に咲く萩にちなんで「おはぎ」と言うそうです!

< 3月13日は『新撰組の日』 >

幕末の京都で將軍警護としての役割を担った組織「新撰組」。1863年(文久3年)、新撰組の前身である「壬生浪士組」が発足した日に因んで制定されました。激動の幕末の中で剣を手に取り命を賭して戦った隊士達の姿は、たくさんの人達の手によってその物語が編み直され、いまだなお私達の心を捉えています。今回はせっかくなので、新撰組がテーマの作品をいくつか紹介させていただきます!

・「燃えよ剣」「新撰組血風録」 司馬遼太郎

・「壬生義士伝」 浅田次郎

・「幕末新選組」 池波正太郎

・「黒龍の柩」 北方謙三

・「新選組始末記」 子母澤寛

・「新選組 幕末の青嵐」 木内昇

永倉新八が主人公!

関係者の見聞を丁寧に集めているルポルタージュ的作品です!

各隊士にスポットを当てた短編集!